

職場の教養

5

2024 MAY

一般社団法人 倫理研究所

職場の教養

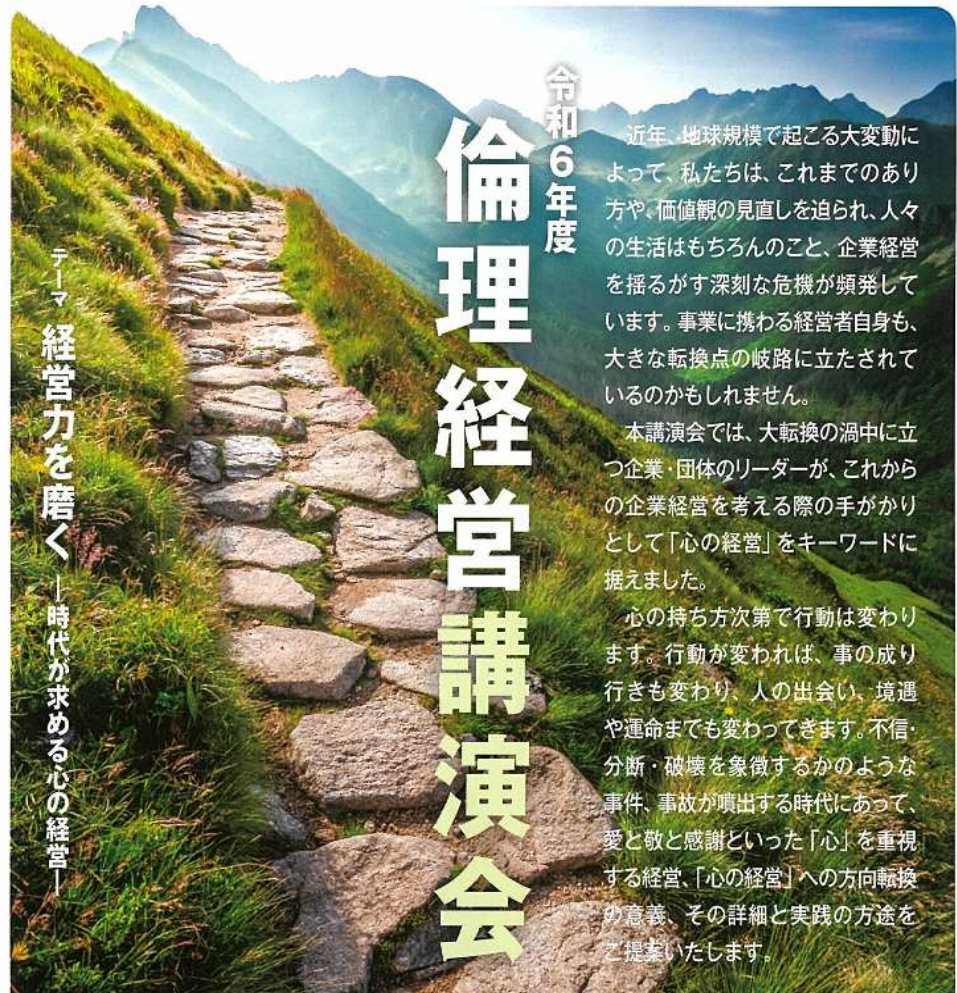
5月号

2024(令和6)年5月1日発行
(毎月1日発行)
第49巻5号 通常号(500円)

編集人 三浦貴史
発行人 和田 毅

一般社団法人 倫理研究所
<https://www.rinri-jpn.or.jp/>

本書は非売品で倫理研究所の法人会員に毎月無料で贈呈しています。入会のお申し込み、お問い合わせは、倫理法人会事務局へどうぞ。



倫理経営講演会

令和6年度

テーマ 経営力を磨く―時代が求める心の経営―

近年、地球規模で起こる大変動によって、私たちは、これまでのあり方や、価値観の見直しを迫られ、人々の生活はもちろんのこと、企業経営を揺るがす深刻な危機が頻発しています。事業に携わる経営者自身も、大きな転換点の岐路に立たされているのかもしれない。

本講演会では、大転換の渦中に立つ企業・団体のリーダーが、これからの企業経営を考える際の手がかりとして「心の経営」をキーワードに据えました。

心の持ち方次第で行動は変わります。行動が変われば、事の成り行きも変わり、人の出会い、境遇や運命までも変わってきます。不信・分断・破壊を象徴するかのような事件、事故が噴出する時代において、愛と敬と感謝といった「心」を重視する経営、「心の経営」への方向転換の意義、その詳細と実践の方途をご提案いたします。

倫理経営講演会は、1月～5月、経営者を対象に全国735カ所で開催中です。
お問い合わせは各倫理法人会事務局へ(本誌巻末掲載)

倫理経営講演会
関連図書

新刊 朗らかに生きる
丸山敏秋 著

B6判 並製 324頁 1,200円(税込)

本書は、全国の倫理経営講演会会場でお求めいただけます。



所属

氏名

--	--

四月に新入社員として入社した人は、まだ分からないことが多い中で、仕事に邁進しているのではないでしょうか。

分からないことや疑問があれば、すぐに先輩に聞いたり、資料などを確認することが大切です。その際に、内容や仕組みを理解して着手できればよいのですが、すぐには難しいこともあります。

そのようなときは、まず上司や先輩から言われた通りにやってみるのがよいでしょう。実際にやってみることで後から理解できることも多いからです。

まずは言われたことに素直に取り組み、何事にも「ハイ」という返事をして指示を受け止めることが大切です。

すぐに、明るく、大きな声での返事を心がけることによって、仕事に対して前向きな姿勢が培われます。

仕事を依頼されたら「ハイ」と明るい返事をしてみましょう。そのように様々な仕事を積極的に行なう中で仕事を理解していきましょう。

今日の心がけ◆明るい返事をしましょう

戦を扱った映画などで「やあやあ我こそは」で始まる「名乗り」を上げるシーンを目にしたことがある人も多いでしょう。

武将が自らの氏名や家柄、身分などを声高に告げることを「名乗り」と言います。相手に正々堂々と勝負を挑み、兵士たちの士気を高める効果があったようです。また、「名乗り」の最中は互いに攻撃をしないという作法もありました。

ビジネスシーンの「名乗り」と言えば名刺交換です。訪問した側から先に名刺を出し、立場の上の者から順に交換する、両手で名刺をいただく、相手の名前を復唱するなど、その時々々の作法があります。

しかし、作法にばかり気を取られて、何のための名刺交換かを忘れてしまつては元も子もありません。これから共に仕事を進めていく大切なパートナーを敬う気持ち、名刺交換の挨拶に込めましょう。

仕事を円滑に進めるには相手とのより良い人間関係が重要です。作法に心を添え、誠意を持って仕事に励みたいものです。

今日の心がけ◆作法に心を込めましょう

日本再発見! -色彩:美の絶景(日本)-

徳仙丈山のツツジ (宮城県気仙沼市)

見渡す限りにヤマツツジとレンゲツツジが咲き誇り、まるで山ごと紅く染まっているよう。徳仙丈山は、岩手県との県境付近にある標高711mの低山で、日本最大級のツツジの群生地として知られる。5月中旬から下旬に満開を迎えるツツ

ジは、その数、約50万本。第1展望台から見る「つつじが原」と、その先にある第2展望台からの眺望が絶景ポイントだ。人の背丈よりも高いツツジが群生する「つつじ街道」や、山頂からの360度ぐりと見渡せる景色も見どころだ。



剣豪として名を馳せた戦国武将の一人に柳生宗厳がいます。柳生家一門の間でも「当家の宝」と言われるほど剣術のセンスに秀でており、当時流行していた様々な流派に学んで、メキメキと腕を上げていきました。

ところが、宗厳が三十五歳の時、ある人物と対戦して初めて完敗します。その人物とは、「新陰流」の開祖として知られる剣聖の上泉信綱です。

握っていた刀を奪い取られてしまうほどの圧倒的な実力差で負けてしまった宗厳は、その場で信綱に弟子入りを志願します。そして改めて一から剣技を鍛えなおし、二年後には師から免許皆伝を受けるまでに上達しました。

宗厳の成長の要因は、信綱との勝負に負けたことで、剣術にすべてを捧げていたかつての自分の姿を思い出したことにあります。そして、生来の能力に甘んじていた自分を省みて一心不乱に鍛錬を重ね、技により磨きをかけたのです。

人間の真価は、負けた時や失敗した時にこそ問われます。負けや失敗は、自分を成長させてくれる貴重な経験だと、日頃から肝に銘じたいものです。

今日の心がけ◆負けや失敗から学びましょう

子供の頃から学校や家庭で教えられてきた挨拶は、仕事を円滑に進める上で欠かせることのできない礼儀の一つです。「挨拶もできない」と相手から思われると、信頼を損ねる恐れもあります。

建設現場の責任者であるAさんが、入社して間もない頃のことです。当時の上司から「どのような立場でも、周囲の人々に挨拶をして礼儀を尽くすことが良い仕事をする上での基本だ」と教わりました。

その話を聞いてAさんは、「勇気を出して自分から挨拶をしてみよう」と決意し、それ以来、立場に関係なく率先して挨拶することを心がけてきました。

続けていると、ほかの社員たちにも挨拶をする習慣が広がっていき、現場の雰囲気良くなっていきました。それによって互いのコミュニケーションがとりやすくなり、チームワークも良くなっていきました。Aさんは実感しました。

挨拶は、人間関係を築くための第一歩です。毎日継続して行ない、より良い関係性を作るきっかけにしていきたいと思います。

今日の心がけ◆進んで挨拶をしましょう

日本再発見! -色彩:美の絶景(日本)-

いすみ鉄道の菜の花 (千葉県いすみ市・大多喜町)

いすみ鉄道は、いすみ市の大原駅と大多喜町の上総中野駅までの間26.8kmを結ぶ第三セクター鉄道。そのうち約15kmの区間では沿線に菜の花畑が広がっており、その中を走る黄色い車体は「菜の花列車」と呼ばれ愛されている。例年2月

中旬から3月下旬が見頃で、車窓一面に春爛漫の景色が広がるローカル列車旅が楽しめる。とくにおすすめの区間は、新田野駅周辺や国吉駅～上総中川駅間など。4月上旬頃に見られる、菜の花と桜のコラボレーションも美しい。



今日の心がけ◆自分に合った方法で取り組みましょう

より良い生活習慣を身に付ける、仕事のスキルを向上させるなど、〈自分を变えたい〉と望んでみるものの、それを実行に移すのは難しいものです。後片づけが苦手なYさんの部屋は、いつも物で溢れています。職場のデスクも同様で、必要な時に必要な物が見当たらないこともしばしばでした。時には、思い切った物を捨てたり、整頓したりするものの、継続して綺麗にすることができず、しばらくすると元の木阿弥となってしまうのです。ところがある日、Yさんは同僚から「まずは形から入るといいよ」と言われ、最新の掃除機を購入することにしましたのです。すると、掃除が楽しくなり、〈掃除機を使わないのはもったいない〉とも思うようになり、継続して掃除を行なうようになったのです。掃除を習慣化させたYさんは、職場でもデスクが整理され、仕事がしやすい環境になったといいます。「心は形に表われ、形は心を進める」と言われます。苦手な何かに挑戦するとき、まずは形から入り、意欲を高めるのも一つの方法です。

日本再発見! -色彩:美の細景(日本)-

桜えびの天日干し
(静岡県静岡市)

桜えびは生息条件が厳しく、資源保護のため日本で唯一、駿河湾でしか水揚げができない。春と秋の漁期には水揚げされた桜えびが富士川河川敷に天日干しされ、一面がピンク色に染まる、不思議な光景が広がる。その条件は、前日に出漁し

今日の心がけ◆相手を気遣いましょう

Aさんは知人から、飛行機の国際線ファーストクラスを利用した際に、座席に一輪のバラが置かれていたことに、とても感動を覚えたという話を聞きました。これは、小さな心遣いが、お客様に大きな影響を与えるという一例です。職場においては、派手な演出を行なう必要はないかもしれませんが、相手を思いやる少しの意識と行動の積み重ねが、職場の環境を大きく変えることがあります。例えば、いつもより少し明るい調子で挨拶をする、相手が話しているときには相手の方を向きながら聞く、新しい従業員に廊下で出会った際には、こちらから声を掛けるなどを心がけてみてはいかががでしょう。また、業務を円滑に進めるための配慮も様々なシーンで考えられます。迅速にメールを返信する、提出するファイル名を分かりやすくするなどです。人は誰しも、他者から尊重されたいものです。尊重していることを言葉で表わすこともできますが、日々の行動も相手に対する敬意の指標となるはずです。言葉と行動で相手を思いやるのが、働きやすい職場環境につながるのです。

ていること、そして当日が晴れていること。富士山をバックに写真が撮れるため、漁期は撮影する人々で賑わう。由比漁港では6月頃、獲れたての桜えび等、名産品の販売などを行なう「由比桜えびまつり」が開かれる。



誰しもが人生を、〈自分らしく生きたい〉と思うのではないのでしょうか。「自分らしさ」を発揮するには、自分自身を知ることが大切です。まず自分の個性や価値観、長所、短所を把握することから始めましょう。

そして、こうした自分の存在をありのままに承認しましょう。これは、長所だけでなく、自分の短所や弱さもすべて受け入れる「自己受容」の精神です。

自己受容は自己肯定感を高めることに通じています。自己を肯定できるようにになると、他者や起こった出来事も前向きに受け止められるようになり、時には困難な状況を乗り越える力にもなり得ます。

逆に、「〇〇氏と知り合いたから、私はすごい」「高価な服を着ているから、私はすごい」といった、自分以外のものに依存した価値でしか自分を認められないならば、それらを失うと自己否定に陥る恐れがあります。

ありのままの自分を認めて前向きに生きる姿勢は、より良い人間関係を構築させ、周囲にも好影響をもたらすはずです。

今日の心がけ◆自己受容に努めましょう

Nさんは、年齢を重ねるにつれ、お腹周りが気になってきました。一方で、同年代の同僚の一人は、体型が入社時と変わらずスリムなままです。

体型維持の秘訣が気になったNさんは、その同僚に尋ねてみました。すると、日々意識して行なっていることを教えてくれたのです。

それは、生活の中で無理のない運動を取り入れることでした。会社ではエレベーターの使用頻度を減らして、階段を使うようにしており、加えて毎晩十分の筋力トレーニングとストレッチは欠かさないと言います。

同僚は毎日の運動が習慣化すると、食事にも気を配るようになって間食が減り、節約にもつながっているとも言います。また、体重の変化や家計簿を記録し、継続のモチベーションにしているそうです。

この話を聞き〈小さな行動でも、毎日コツコツ続けることが大事だ〉と再認識したNさんは、その日から軽い運動を始めました。

数カ月後の現在、ベルトの穴を一つ内側に締められるようになったNさんです。

今日の心がけ◆小さな行動を続けましょう

日本再発見! 一色菜: 美の絶景 (日本)

海地獄 (大分県別府市)

「べっぶ地獄めぐり」の一つで、かつ最大のもの。国の名勝に指定されている。温泉ではあるが美しいコバルトブルーの色をしており、まるで海のようなことでその名がつけられた。青く見えるのは、温泉に硫酸鉄が多く含まれている

ためである。約1200年前、鶴見岳の噴火でできた熱泉で、澄んだ色をしているが、やはり地獄で、泉温は98度という高温だ。春はサクラやツツジ、秋には紅葉、冬には雪景色など四季折々の風景を楽しませてくれる。

